

授業名	科学技術コミュニケーション入門1～4 夏期集中
Course	Introduction to Science Communication
単位数	2単位
担当教員名	◎辻 義人
授業形態	集中講義
授業の概要	<p>本科目は、科学技術コミュニケーションの理念と実践について、対話式の学習活動を通して学ぶものである。科学技術コミュニケーションとは、科学技術の専門家と非専門家（市民）とを結びつけ、お互いの対話や理解、さらには、連携や協働を実現するための活動である。具体的な例として、「はこだて国際科学祭」が挙げられる。はこだて国際科学祭の2023年度のテーマは「健康」である。本科目では、はこだて国際科学祭の取り組みに注目し、以下の3点について体験的な学びを行う。</p> <p>(1)なぜ科学技術コミュニケーション活動が必要なのか (2)具体的にどのような活動が行われているのか (3)地域において科学技術コミュニケーション活動を展開する工夫とは</p>
授業の到達目標	<p>(1) 専門家と市民の対話や学習のデザイン、また、科学技術コミュニケーションに関する基本的な知識や技能を身につける。 (2) 受講者間において対話や議論を行うことを通して、連携的・協働的な活動を体験する。 (3) 本科目で予定している対談講演会、また、はこだて国際科学祭の参加体験に基づき、受講者と科学技術コミュニケーション活動の関係性を検討する。 (4) 今後、受講者が社会に対してできること、また、やってみたいことをプロジェクトとして検討し、議論と発表を行う。</p>
提出課題等	
成績の評価方法・基準	出席状況、講義中の発言や参加・貢献態度、講義期間後のレポートに基づき、総合的に成績評価を行う。単位認定要件として、開講期間（三日間）の全プログラムに参加する必要がある。
テキスト	<p>教科書は指定しない。必要な資料は、適宜配布する。</p> <p>なお、科学技術コミュニケーションの理念や実際について、より深い理解を促す資料として、以下の参考書を紹介する。</p> <p>ギルバート J.K. and ストックルマイヤー S. (2015) 現代の事例から学ぶサイエンスコミュニケーション—科学技術と社会とのかかわり、その課題とジレンマ—、 小川義和・加納圭・常見俊直（監訳）、 慶應義塾大学出版会</p>
履修条件	<p>・本科目は、ハイブリッド形式（オンライン形式と対面形式の組み合わせ）で実施する。単位認定に際して、全講義期間（三日間）の参加が必要である。初日は、オンライン形式（Zoom利用）で講義とディスカッションを行う。二日目と三日目については、函館市内の会場を利用し、対面形式の講義とディスカッションを行う。なお、二日目と三日目の講義に際して、他大学の学生がオンラインで参加することがある。</p> <p>・履修希望者が多数の場合、何らかの方法（抽選など）によって履修者選抜を行う。</p>
事前学習	本科目の受講に際して、科学館や博物館等の主催する科学技術イベントへの参加経験があることが望ましい。
事後学習	本科目の授業内容を踏まえ、はこだて国際科学祭の何らかのイベントを聴講する必要がある。
履修上の留意点	<p>・本科目は、キャンパス・コンソーシアム函館における単位互換科目、南大阪地域大学コンソーシアムにおける広域単位互換科目に指定されている。また、サイエンス・サポート函館における「科学寺子屋」として、広く一般市民の参加を募集している。</p> <p>・本科目の履修可否、開講日程、受講要件について、追ってメールで連絡を行う。本科目の履修希望者は、事務局のアナウンスに十分に注意すること。</p>

授業計画（テーマ、スケジュール）

本科目は、科学技術コミュニケーション活動に関する講義、ゲスト講師による講演会、受講者どうしのディスカッションや協働作業などのアクティビティから構成される。本科目の概要について、以下に示す。なお、講演会ゲストとの内容調整、また、受講者のアクティビティへの活動状況によって、内容や構成が変更される可能性がある。

- ・授業ガイダンス
- ・ゲスト講師による対談講演会
- ・講義（科学技術コミュニケーションの概念と実践）
- ・議論と発表（受講者の参加経験、期待される活動のあり方）
- ・最終プレゼン（科学技術コミュニケーション活動のプロジェクト化）
- ・授業の振り返り

本科目は、ハイブリッド形式（オンライン形式と対面形式の組み合わせ）で実施する。現時点における開講日程は、2023年8月5日（土：オンライン形式）、7～8日（月・火：対面形式）を予定している。開講日程について、今後のアナウンスに注意すること。

【南大阪地域大学コンソーシアム・募集要項】

- 本講義は、対面形式とオンライン形式の2つの形態で開講する。南大阪地域大学コンソーシアムの受講生は、コンピュータを用いて、函館における対面会場にアクセスする。キャンパスコンソーシアム函館の受講生は、函館市内における会場での対面学習を実施する。本講義では、対面参加とオンライン参加の学生について、ウェブ会議システムを用いた協働学習を行う。
- 必要機材等：本講義は、オンライン開催である。受講用コンピュータは必須である。また、三日間をととして、安定して通信できるネットワーク環境が必要である。
- 単位認定要件：本科目の単位認定に際して、以下の2点の要件を満たす必要がある。(1)三日間の講義期間のすべてに参加すること。(2)指定された課題について提出し、一定の成績に達すること。
- その他：南大阪地域大学コンソーシアムの受講生は、オンライン形式での参加に際して不明点がある場合、担当教員（公立はこだて未来大学 辻：y-tsujii@fun.ac.jp）まで相談すること。